

令和8年度 筑北村河川水質検査 結果一覧

筑北村

河川名		東条川	別所川	麻績川	永井川・安坂川合流地点
採取地点		聖南中学校前	平集会所前	赤松集会所前	坂井橋付近
採取日		2026年7月16日	2026年7月16日	2026年7月16日	2026年7月16日
天気		曇り	曇り	晴れ	晴れ
気温(℃)		25.0	26.0	26.3	27.0
水温(℃)		21.4	23.7	24.4	20.2
透視度(度)		40	100超	94	100超
色相/臭気		黄色・中/無臭	黄色・淡(明)/無臭	灰色・淡(明)/無臭	無色/無臭
電気伝導率(mS/m)		18.6	33.5	25.7	14.9
pH	—	7.3	7.9	8.1	7.4
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	1.0	0.8	0.9	0.6
浮遊物質(SS)	mg/L	22	3	19	4
溶存酸素量(DO)	mg/L	7.6	7.8	8.2	8.3
大腸菌数	CFU/100mL	200	390	550	200
全窒素	mg/L	1.6	1.1	1.1	1.1
全燐	mg/L	0.16	0.028	0.12	0.039
考察		本調査の結果、pH、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(SS)及び溶存酸素量(DO)においては、全ての地点で基準を満たしていた。別所川及び麻績川では大腸菌数が高い値であった。 大腸菌数が高くなる理由としては、人為的要因(生活排水の流入等)と自然的要因(野生動物の影響等)が考えられる。特に近年は野生動物の生息域拡大や個体数増加が報告されており、河川の大腸菌数にも影響を及ぼしていることが懸念される。 総じて過去の検査結果と同様の傾向が見られていた。			

検査項目について		
項目名	基準値 (類型:A)	
pH	6.5～8.5	水素イオン濃度を表します。1～14の範囲で、中性の7を中央として数値が小さいと酸性、大きいとアルカリ性です。
生物化学的酸素要求量(BOD)	2以下	微生物が水中の有機物を分解する為に必要な酸素の量を表します。有機物汚濁の指標となります。
浮遊物質(SS)	25以下	水中に浮遊している物質のうち、およそ1μm～2mmの粒子の量を表します。
溶存酸素量(DO)	7.5以上	溶け込んでいる酸素の濃度を表します。水中の有機物が少ないほど、水温が低いほど、酸素量は増加する傾向にあります。その他、藻類の光合成により高くなる場合があります。
大腸菌数	300以下	水中に浮遊している大腸菌の数を表します。ふん便汚染の指標となります。
全窒素、全燐	—	水中の窒素化合物又はリン化合物の量を表します。湖沼の富栄養化の原因の一つとも言われ、生活排水や工場排水が主な発生源とされています。